

相続を“争族”にしないための情報紙

そうぞくの窓口[®]

SOUZOKU NO MADOGUCHI CHUOKU BAN

中央区版 vol.2

2024.9

発行

そうぞくの窓口
中央支部

〒103-0025
中央区日本橋茅場町2-13-11

TEL 03-6661-0787

「きのこのつもの昼、何食べた？」 思い出せないが大変!! 認知症の時代の予防と対策

65歳以上の5人に一人、2025年には700万人にも上ると言われる認知症。これからの時代、どう臨めばいいのか。介護施設や保険会社などで多くの講演を行う認知症アドバイザー協会代表理事の廣瀬豪輝さんに、そうぞくの窓口編集長・泉が伺いました。

祖父の認知症で 予防と対策の必要性を痛感

泉「廣瀬さん自身ご家族の認知症で大変な思いをされたそうですね」

廣瀬「はい。祖父が10年以上前から認知症です。私の名前が即座に出てこなくなることから始まり、今では一言も話すことがなくなりました。私たちから見ると自我を失った状態なのかもしれないと感じます」

泉「それは切ないですね」

廣瀬「認知症は、よく言われる短期記憶の衰えなど日常生活への支障と同時に、経済的なリスクも発生します。そのため、家族は大変なことになります。多くの方にそのことを知らしめ、対策できるようにしなければと思い、当協会に参画しました」

泉「経済的なリスクとは？」

廣瀬「遺言書の作成も難しくなり、銀行口座は凍結され、不動産処分もできない可能性があります」

泉「自分のお金が使えない？」

廣瀬「ご自身の銀行口座から自由には出せないケースが多々あります。意思能力がないと判断されると、成年後見人を立てる選択ができますが、家族がなるとは限りませんが、家庭裁判所が定めた司法書士など第三者が担当する場合も多く、そこで認められないと使えません」

泉「まずは予防
体も脳も動かして」

廣瀬「まずはならないこと。予防が重要です。特に運動。走るのには有効で、脳も動かしながら理想的です。その意味では、いろいろ考えながら回る」

泉「認知症アドバイザー協会代表
廣瀬豪輝(ひろせごうき)さん

廣瀬「認知症アドバイザーは、予防医学と経済対策両方の知識を持っています。まずは相談してみたいかがでしょうか」

泉「予防すれば、大丈夫ですか？」

廣瀬「ならない保証はなく、発症すると元に戻ることには期待できません。だからこそ、早めの経済対策が必要なんです」

泉「例えばどんなことでしょうか」

廣瀬「自分の財産はどうしたいのかなど、次の代のごとも視野に入れて管理しておく。家族信託など有効策もいくつかあります。これも認知症を発症してからはできません」

泉「それそれ事情があるし、どうすればいいのかわからない方も多いと思います」

廣瀬「認知症アドバイザーは、予防医学と経済対策両方の知識を持っています。まずは相談してみたいかがでしょうか」



認知症アドバイザー協会代表
廣瀬豪輝(ひろせごうき)さん



ご夫婦と一緒にランニング。
気軽にできて、認知症にも有効です。

インタビュー: そうぞくの窓口編集長/泉三紀夫

「あれ?思い出せない!」気になる?! 認知症チェックリスト

1. 最近よく眠つまずく。
2. 昨日のお昼何食べたか思い出せない。
3. 最近、髪をなくした。
4. 最近、孫の名前が出てこない。
5. 出先で、電気を消したか気になる。
6. 引き算が苦手になった。
7. 顔はわかっているのに名前がすぐに思い出せない。

一つでも当てはまれば当セミナーへ
認知症アドバイザーがお話を伺います。

TEL: 03-6661-0787



*このリストはあくまで目安です。不安があったら、地域の認知症アドバイザーに相談してみよう



認知症アドバイザー協会

認知症を科学的・医学的に予防し、かつ認知症によって引き起こされる経済的リスクから守ることをミッションに認知症アドバイザー資格の普及を行っております。